

令和6年度県立学校部活動実態調査について

保健体育課

1 調査の目的

県立学校部活動における暴力・暴言・ハラスメント等の実態を把握し、部活動の在り方の改善を図るための基礎資料とする。

2 対 象

県立学校（県立中学校除く）78校（全日58、定通9、特支11）

- (1) 管理職（校長・副校長・教頭）
- (2) 部活動指導者（全教職員・部活動指導員・外部指導者）
- (3) 部員（1～3年生）（定通制は1～4年生）
- (4) 部員の保護者（1～3年生）（定通制は1～4年生）

※調査対象は運動系・文化系（同好会含む）の全部活動

※教職員は部活動顧問を担当している全ての教職員

※特別支援学校及び定通制については、部活動のある学校のみ。

3 調査方法

県立学校インターネット回線(Microsoft365内の「Forms」)を活用し、アンケート調査を実施。各学校ではQRコードを部員等へ配布。部員等は自宅等で回答。

4 調査対象期間 令和6年4月～11月の事案

5 回答期間 令和6年12月16日（月）～令和7年1月24日（金）

6 調査結果概要

※〈 〉内は、R5調査結果

(1) 調査数

	調査数	回答数	回答率
総 数	54,504	17,632 〈14,911〉	32.3% 〈28.4%〉
内 訳			
管理職	182	182 〈 177〉	100% 〈100%〉
指導者	3,902	4,356 〈2,320〉	111.6% 〈57.9%〉
部 員	25,210	9,802 〈9,342〉	38.9% 〈38.7%〉
保護者	25,210	3,292 〈3,072〉	13.1% 〈12.7%〉

※指導者の回答率が100%を上回ったのは、複数の部活動の顧問を担当している教職員が複数回答したこと、また事前に把握していた外部指導者数より多くの外部指導者が回答したものと考えられる。

令和7年第4回教育委員会会議 報告事項（2）

(2) 調査結果概要

- ①「部員・保護者等からの暴力・暴言・ハラスメントの訴え」について、
・「あった」と回答

	回答数	割合
管理職	51 〈54〉	28.0% 〈30.5%〉
指導者	34 〈19〉	0.8% 〈0.8%〉

- ②「部活動で暴力・暴言・ハラスメントを受けたことがあるか」について、
・「ある」と回答

	回答数	割合
部 員	181 〈181〉	1.8% 〈1.9%〉
保護者	127 〈132〉	3.9% 〈4.3%〉

- ③「部活動での暴力・暴言・ハラスメント」の内容（複数回答可）

【部 員】（上記②で「ある」と回答した181人中）

	回答数	割合
① 身体的攻撃（殴る、蹴る、長時間の正座など）	16 〈29〉	8.8% 〈16.0%〉
② 精神的攻撃（暴言、差別的言動、人格を否定した発言など）	145 〈136〉	80.1% 〈75.1%〉
③ 人間関係からの切り離し（無視、仲間外しなど）	39 〈32〉	21.5% 〈17.7%〉
④ 過大な要求（競技上あきらかに不要なことや遂行不可能なことの強制、競技の妨害など）	39	21.5%
⑤ 過小な要求（競技上の合理性なく能力と経験からかけ離れた程度の練習を命ずる、練習をさせない、道具を使用させないなど）	30	16.6%
⑥ 個の侵害（私的なことに過度に立ち入るなど）	40	22.1%
⑦ セクシャルハラスメント	7 〈31〉	3.9% 〈17.1%〉

※④・⑤・⑥に関しては、令和6年度より実施

- ④「暴力・暴言・ハラスメントが解決されていない」と回答（複数回答可）

	回答数	割合
管理職（51名中）	3 〈8〉	5.9% 〈14.8%〉
指導者（34名中）	3 〈2〉	8.8% 〈10.5%〉
部 員（181名中）	122 〈98〉	67.4% 〈54.1%〉
保護者（127名中）	90 〈102〉	70.9% 〈77.3%〉

- ⑤「指導者との信頼関係」について

【部 員】

	回答数	割合
強く感じる・感じる	8,545 〈8,040〉	87.1% 〈86.1%〉
あまり感じない・感じない	1,257 〈1,302〉	12.8% 〈13.9%〉

令和7年第4回教育委員会会議 報告事項(2)

⑥「部活動に関する悩み」について（複数回答可）

【部 員】

	回答数	割合
特段の悩みはない	6,895 〈6,438〉	70.3% 〈66.6%〉
学業との両立	1,392 〈1,445〉	14.2% 〈14.9%〉
部活動時間・日数が長い	1,180 〈1,214〉	12.0% 〈12.6%〉
部活動指導者からの私用の携帯電話（メール、LINE 含む）等からの連絡・指示が多い	47 〈73〉	0.5% 〈0.8%〉
県内外遠征費用の負担が多い	391 〈388〉	4.0% 〈4.0%〉

【保護者】

	回答数	割合
特段の悩みはない	1,720 〈1,678〉	52.2% 〈54.6%〉
学業との両立	637 〈554〉	19.3% 〈18.0%〉
部活動時間・日数が長い	460 〈448〉	14.0% 〈14.6%〉
指導者の行きすぎた指導	43 〈41〉	1.3% 〈1.3%〉
県内外遠征費用の負担が多い	403 〈322〉	12.2% 〈10.5%〉

⑦「校内研修以外に年1回の研修の受講」について、

・専門とする指導者 2,136名 〈1,156名〉のうち、

	回答数	割合
受講していない	200 〈125〉	9.4% 〈10.8%〉

⑧「沖縄県高校部活生メッセージ2023の内容を知っているか」について

【管理職】

	回答数	割合
熟知している・概ね知っている	171 〈168〉	94.0% 〈94.9%〉
見たことはある・名称は知っている・全く知らない	11 〈9〉	6.0% 〈5.1%〉

【指導者】

	回答数	割合
熟知している・概ね知っている	2,519 〈1,300〉	57.8% 〈56.1%〉
見たことはある・名称は知っている・全く知らない	1,837 〈1,020〉	42.2% 〈43.9%〉

【部 員】

	回答数	割合
熟知している・概ね知っている	754 〈508〉	7.7% 〈5.4%〉
見たことはある・名称は知っている・全く知らない	9,048 〈8,834〉	92.4% 〈94.6%〉

【保護者】※保護者に関しては、令和6年度より実施

	回答数	割合
熟知している・概ね知っている	282	8.6%
見たことはある・名称は知っている・全く知らない	3,010	91.4%

(3) まとめ

- ① 「ハラスメント等の訴えがあった」と回答した管理職・指導者及び「ハラスメント等を受けたことがある」と回答した部員、保護者の回答数が前年度と同等数であることから、まだ一部の指導者の意識改革が進んでいない状況が見られる。
- ② 「ハラスメント等の内容」では、特に「精神的攻撃」が大きな割合を占めている状況である。「身体的攻撃」のみならず、暴言、差別的言動や人格を否定する言動が精神的苦痛を与えるハラスメントであることを指導者には十分理解させる必要がある。
- ③ 「ハラスメント等の解決」について、部員と保護者の認識と、管理職と指導者の認識との間に、依然として相違がある。
- ④ 部活動に対する悩みとして、部員及び保護者とも「学業との両立」、「長時間の活動」をあげている。
- ⑤ 部活動指導者を対象とした研修において、年々受講していない指導者の割合が減少しており改善が見られる。しかし、受講していない多くの指導者は、「研修の実施を把握していなかった」という理由で研修を受講していない。
- ⑥ 「沖縄県高校部活生メッセージ2023」の内容について、「熟知している・概ね知っている」と回答した部員や保護者が少ない。

7 今後の対応

県教育委員会では、県立学校部活動実態調査の結果を受けて、指導者の資質向上と人権意識の高揚に向けた取組や、各校における相談体制の構築を令和7年度も引き続き強化してまいります。また、「沖縄県高校部活生メッセージ2023」について、各学校単位での周知を強化し、ハラスメントゼロに向けた啓発活動の実施に取り組んでまいります。

【県教育委員会の主な取組み】

- ① 生徒・保護者等からの相談等に対し、関係者への確認と指導助言を行い、学校と協力しながら解決に向け取り組む。
- ② 令和6年度部活動実態調査結果を各学校へフィードバックするとともに、県立学校を巡回訪問し、各学校に指導助言を行う。
- ③ 各学校に対し「沖縄県高校部活生メッセージ2023」のさらなる周知を図るとともに活用を促す。
- ④ 高体連等、関係団体と連携し、「子どもの人権」に係る指導者の意識の高揚を図り、「ハラスメント等の根絶」に取り組む。

【学校の主な取組み】

- ① 令和6年度部活動実態調査の結果をふまえ、実態把握に努め、その解決に向け迅速・適切に対応する。

令和7年第4回教育委員会会議 報告事項(2)

- ② 校長のリーダーシップのもと、「人権を考える日(人権の日)」などにおいて、「沖縄県高校部活生メッセージ2023」を教職員と生徒で再確認する機会を設けるとともに、部活動の在り方に関する方針(改定版)の徹底を図る。また、PTA活動等において、保護者に対しても周知を徹底する。
- ③ 学校は、指導者に対して、校内研修を実施するほか、各競技団体等の研修会への参加を促す。
- ④ 管理職は、部員や保護者からの部活動に係る相談体制を整え、部員、保護者へ周知するとともに、ハラスメント等が疑われる事案が発生した際には、部員からアンケート及び聞き取り等を実施し、実態把握に努め、その解決に向け迅速・適切に対応する。